

リサイクル燃料備蓄センター設工認
設3-補-002
2023年3月28日

リサイクル燃料備蓄センター  
設計及び工事の計画の変更認可申請書  
(補足説明資料)

設計用床応答曲線の作成方針

令和5年3月

リサイクル燃料貯蔵株式会社

## 目次

1. 目的 .....	1
2. 既設工認からの変更点 .....	1
3. 設計用床応答曲線の作成結果 .....	1
別紙1 変更前後比較表（添付 5-1-5 設計用床応答曲線の作成方針） .....	2

---

平成 22 年 8 月 27 日付け平成 22・06・16 原第 7 号にて認可され、令和 3 年 8 月 20 日付け原規規発第 2108202 号、令和 4 年 8 月 16 日付け原規規発第 2208161 号をもって変更の認可を受け、令和 4 年 9 月 30 日 RFS 発官 4 第 8 号にて変更を届け出た設計及び工事の計画を、本補足説明資料において「既設工認」という。

## 1. 目的

本補足説明資料では、令和5年3月28日RFS発官4第18号にて申請した、「使用済燃料貯蔵施設に関する設計及び工事の計画の変更の認可申請書」の添付書類のうち、設計用床応答曲線について説明している「添付 5-1-5 設計用床応答曲線の作成方針」の既設工認からの変更点について説明する。

## 2. 既設工認からの変更点

### (1) 基本方針

既設工認で用いている基本方針から変更点はない。

### (2) 解析方法

既設工認で評価を行っている方法から変更点はない。

### (3) 入力地震動

既設工認に対し新たな入力地震動を追加する。

## 3. 設計用床応答曲線の作成結果

基準地震動及び弾性設計用地震動（震源を特定せず策定する地震動の一つである標準応答スペクトルを考慮した地震動 $S_s$ -B5及び弾性設計用地震動 $S_d$ -B5）を追加した設計用床応答曲線を別紙1図番SB-SdH-SB1, SB-SdH-SB2, SB-SdV-SB1, SB-SdV-SB2, SB-SsH-SB1, SB-SsH-SB2, SB-SsV-SB1, SB-SsV-SB2に、使用済燃料貯蔵建屋の各床面（金属キャスク、天井クレーン設置位置）の設計用最大加速度を別紙1表4.1, 表4.3に示す。設計用床応答曲線及び弾性設計用地震動 $S_d$ における鉛直方向の最大加速度が変更になった。

この変更による耐震評価結果は「添付 5-3-1 金属キャスクの耐震性に関する計算書」、「添付 5-4-1 貯蔵架台の耐震性に関する計算書」、受入れ区域天井クレーンの耐震性に関する計算書」による。

添付 5-1-5 設計用床応答曲線の作成方針

変更前（既設工認）	変更後	変更理由
<p>添付 5-1-5 設計用床応答曲線の作成方針</p> <p>1. 概要                      &lt;中略&gt;</p> <p>2. 設計用床応答曲線作成に係る基本方針及び作成方法</p> <p>2.1 基本方針</p> <p>(1) 添付資料「添付 5-2-1 使用済燃料貯蔵建屋の耐震性に関する計算書」のうち「8.2 地震応答解析」に基づき策定した使用済燃料貯蔵建屋の解析モデルに対して、入力地震動を用いた時刻歴応答解析を行い、各質点位置における加速度応答時刻歴を求める。入力地震動は、添付資料「添付 5-1-1 基準地震動 <math>S_s</math> 及び弾性設計用地震動 <math>S_d</math> の策定概要」に基づくものとして、表 2-1 に示す。</p> <p>(2) (1) で求めた各質点の加速度応答時刻歴を入力として、減衰付 1 自由度系の最大応答スペクトルを必要な減衰定数の値に対して求める。</p> <p>(3) (2) で求めた床応答スペクトルに対し、使用済燃料貯蔵建屋の固有周期のシフトを考慮し、周期方向に <math>\pm 10\%</math> の拡幅を行い、設計用床応答曲線とする。</p> <p>2.2 解析方法                      &lt;中略&gt;</p> <p>2.3 減衰定数                      &lt;中略&gt;</p> <p>2.4 数値計算用諸元                      &lt;中略&gt;</p> <p>2.5 応答スペクトル作成位置                      &lt;中略&gt;</p> <p>2.6 応答スペクトルの適用方法                      &lt;中略&gt;</p>	<p>添付 5-1-5 設計用床応答曲線の作成方針</p> <p>1. 概要                      今回の申請に係る本説明は、既設工認の「添付 5-1-5 設計用床応答曲線の作成方針 1. 概要」に同じである。</p> <p>2. 設計用床応答曲線作成に係る基本方針及び作成方法</p> <p>2.1 基本方針</p> <p>(1) 添付資料「添付 5-2-1 使用済燃料貯蔵建屋の耐震性に関する計算書」のうち「8.2 地震応答解析」に基づき策定した使用済燃料貯蔵建屋の解析モデルに対して、入力地震動を用いた時刻歴応答解析を行い、各質点位置における加速度応答時刻歴を求める。入力地震動は、添付資料「添付 5-1-1 基準地震動 <math>S_s</math> 及び弾性設計用地震動 <math>S_d</math> の策定概要」に基づくものとして、表 2-1 に示す。</p> <p>(2) (1) で求めた各質点の加速度応答時刻歴を入力として、減衰付 1 自由度系の最大応答スペクトルを必要な減衰定数の値に対して求める。</p> <p>(3) (2) で求めた床応答スペクトルに対し、使用済燃料貯蔵建屋の固有周期のシフトを考慮し、周期方向に <math>\pm 10\%</math> の拡幅を行い、設計用床応答曲線とする。</p> <p>2.2 解析方法                      今回の申請に係る本説明は、既設工認の「添付 5-1-5 設計用床応答曲線の作成方針 2.2 解析方法」に同じである。</p> <p>2.3 減衰定数                      今回の申請に係る本説明は、既設工認の「添付 5-1-5 設計用床応答曲線の作成方針 2.3 減衰定数」に同じである。</p> <p>2.4 数値計算用諸元                      今回の申請に係る本説明は、既設工認の「添付 5-1-5 設計用床応答曲線の作成方針 2.4 数値計算用諸元」に同じである。</p> <p>2.5 応答スペクトル作成位置                      今回の申請に係る本説明は、既設工認の「添付 5-1-5 設計用床応答曲線の作成方針 2.5 応答スペクトル作成位置」に同じである。</p> <p>2.6 応答スペクトルの適用方法                      今回の申請に係る本説明は、既設工認の「添付 5-1-5 設計用床応答曲線の作成方</p>	<p>(変更なし)</p> <p><math>S_s</math>-B5 の追加に伴う表の変更</p> <p>(変更なし)</p> <p>(変更なし)</p> <p>(変更なし)</p> <p>(変更なし)</p> <p>(変更なし)</p>

変更前（既設工認）	変更後	変更理由
<p>2.7 設計用床応答曲線の作成 ＜中略＞</p> <p>3. 地震応答解析モデル ＜中略＞</p> <p>4. 最大加速度及び設計用床応答曲線 本項では、使用済燃料貯蔵建屋の各床面（金属キャスク、天井クレーン設置位置）の設計用最大加速度及び設計用床応答曲線を示す。</p> <p>4.1 弾性設計用地震動 <math>S_d</math> 設計用最大加速度及び設計用床応答曲線（<math>S_d</math>）を示す。 (1) 床応答加速度一覧表 使用済燃料貯蔵建屋の各床面（金属キャスク、天井クレーン設置位置）の設計用最大加速度を表 4.1 に示す。 (2) 設計用床応答曲線の図番 作成床面及び減衰定数に応じた設計用床応答曲線の図番を表 4.2 に示す。</p> <p>4.2 基準地震動 <math>S_s</math> 設計用最大加速度及び設計用床応答曲線（<math>S_s</math>）を示す。 (1) 床応答加速度一覧表 使用済燃料貯蔵建屋の各床面（金属キャスク、天井クレーン設置位置）の設計用最大加速度を表 4.3 に示す。 (2) 設計用床応答曲線の図番 作成床面及び減衰定数に応じた設計用床応答曲線の図番を表 4.4 に示す。</p>	<p>針 2.6 応答スペクトルの適用方法」に同じである。</p> <p>2.7 設計用床応答曲線の作成 今回の申請に係る本説明は、既設工認の「添付 5-1-5 設計用床応答曲線の作成方針 2.7 設計用床応答曲線の作成」に同じである。</p> <p>3. 地震応答解析モデル 今回の申請に係る本説明は、既設工認の「添付 5-1-5 設計用床応答曲線の作成方針 3. 地震応答解析モデル」に同じである。</p> <p>4. 最大加速度及び設計用床応答曲線 本項では、使用済燃料貯蔵建屋の各床面（金属キャスク、天井クレーン設置位置）の設計用最大加速度及び設計用床応答曲線を示す。</p> <p>4.1 弾性設計用地震動 <math>S_d</math> 設計用最大加速度及び設計用床応答曲線（<math>S_d</math>）を示す。 (1) 床応答加速度一覧表 使用済燃料貯蔵建屋の各床面（金属キャスク、天井クレーン設置位置）の設計用最大加速度を表 4.1 に示す。 (2) 設計用床応答曲線の図番 作成床面及び減衰定数に応じた設計用床応答曲線の図番を表 4.2 に示す。</p> <p>4.2 基準地震動 <math>S_s</math> 設計用最大加速度及び設計用床応答曲線（<math>S_s</math>）を示す。 (1) 床応答加速度一覧表 使用済燃料貯蔵建屋の各床面（金属キャスク、天井クレーン設置位置）の設計用最大加速度を表 4.3 に示す。 (2) 設計用床応答曲線の図番 作成床面及び減衰定数に応じた設計用床応答曲線の図番を表 4.4 に示す。</p>	<p>(変更なし)</p> <p>(変更なし)</p> <p>(変更なし)</p> <p><math>S_s</math>-B5 の追加に伴う表の変更</p> <p><math>S_s</math>-B5 の追加に伴う表の変更</p>

変更前 (変更前 (既設工認))		変更後		変更理由																																																																						
<p style="text-align: center;">表2-1 入力地震動</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種類</th> <th rowspan="2">地震動名</th> <th colspan="3">最大加速度 (cm/s<sup>2</sup>)</th> </tr> <tr> <th>NS成分</th> <th>EW成分</th> <th>UD成分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8">基準地震動 S<sub>s</sub></td> <td>応答スペクトルに基づく地震動</td> <td>S<sub>s</sub>-A</td> <td>600</td> <td>400</td> </tr> <tr> <td>2004年北海道留萌支庁南部地震を考慮した地震動</td> <td>S<sub>s</sub>-B 1</td> <td>620</td> <td>320</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">断層モデルを用いた手法による地震動</td> <td>S<sub>s</sub>-B 2 H 1</td> <td>450</td> <td rowspan="2">320</td> </tr> <tr> <td>S<sub>s</sub>-B 2 H 2</td> <td>490</td> </tr> <tr> <td>S<sub>s</sub>-B 3 H 1</td> <td>430</td> <td rowspan="2">300</td> </tr> <tr> <td>S<sub>s</sub>-B 3 H 2</td> <td>400</td> </tr> <tr> <td>S<sub>s</sub>-B 4 H 1</td> <td>540</td> <td rowspan="2">-</td> </tr> <tr> <td>S<sub>s</sub>-B 4 H 2</td> <td>500</td> </tr> </tbody> </table> <p>注：弾性設計用地震動S<sub>d</sub>は、基準地震動S<sub>s</sub>に0.5を乗じたものとする。</p>		種類	地震動名	最大加速度 (cm/s <sup>2</sup> )			NS成分	EW成分	UD成分	基準地震動 S <sub>s</sub>	応答スペクトルに基づく地震動	S <sub>s</sub> -A	600	400	2004年北海道留萌支庁南部地震を考慮した地震動	S <sub>s</sub> -B 1	620	320	断層モデルを用いた手法による地震動	S <sub>s</sub> -B 2 H 1	450	320	S <sub>s</sub> -B 2 H 2	490	S <sub>s</sub> -B 3 H 1	430	300	S <sub>s</sub> -B 3 H 2	400	S <sub>s</sub> -B 4 H 1	540	-	S <sub>s</sub> -B 4 H 2	500	<p style="text-align: center;">表2-1 入力地震動</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種類</th> <th rowspan="2">地震動名</th> <th colspan="3">最大加速度 (cm/s<sup>2</sup>)</th> </tr> <tr> <th>NS成分</th> <th>EW成分</th> <th>UD成分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8">基準地震動 S<sub>s</sub></td> <td>応答スペクトルに基づく地震動</td> <td>S<sub>s</sub>-A</td> <td>600</td> <td>400</td> </tr> <tr> <td>2004年北海道留萌支庁南部地震を考慮した地震動</td> <td>S<sub>s</sub>-B 1</td> <td>620</td> <td>320</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">断層モデルを用いた手法による地震動</td> <td>S<sub>s</sub>-B 2 H 1</td> <td>450</td> <td rowspan="2">320</td> </tr> <tr> <td>S<sub>s</sub>-B 2 H 2</td> <td>490</td> </tr> <tr> <td>S<sub>s</sub>-B 3 H 1</td> <td>430</td> <td rowspan="2">300</td> </tr> <tr> <td>S<sub>s</sub>-B 3 H 2</td> <td>400</td> </tr> <tr> <td>S<sub>s</sub>-B 4 H 1</td> <td>540</td> <td rowspan="2">-</td> </tr> <tr> <td>S<sub>s</sub>-B 4 H 2</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>標準応答スペクトルを考慮した地震動</td> <td>S<sub>s</sub>-B 5</td> <td>697</td> <td>442</td> </tr> </tbody> </table> <p>注：弾性設計用地震動S<sub>d</sub>は、基準地震動S<sub>s</sub>に0.5を乗じたものとする。</p>		種類	地震動名	最大加速度 (cm/s <sup>2</sup> )			NS成分	EW成分	UD成分	基準地震動 S <sub>s</sub>	応答スペクトルに基づく地震動	S <sub>s</sub> -A	600	400	2004年北海道留萌支庁南部地震を考慮した地震動	S <sub>s</sub> -B 1	620	320	断層モデルを用いた手法による地震動	S <sub>s</sub> -B 2 H 1	450	320	S <sub>s</sub> -B 2 H 2	490	S <sub>s</sub> -B 3 H 1	430	300	S <sub>s</sub> -B 3 H 2	400	S <sub>s</sub> -B 4 H 1	540	-	S <sub>s</sub> -B 4 H 2	500	標準応答スペクトルを考慮した地震動	S <sub>s</sub> -B 5	697	442	S <sub>s</sub> -B5 の追加
種類	地震動名			最大加速度 (cm/s <sup>2</sup> )																																																																						
		NS成分	EW成分	UD成分																																																																						
基準地震動 S <sub>s</sub>	応答スペクトルに基づく地震動	S <sub>s</sub> -A	600	400																																																																						
	2004年北海道留萌支庁南部地震を考慮した地震動	S <sub>s</sub> -B 1	620	320																																																																						
	断層モデルを用いた手法による地震動	S <sub>s</sub> -B 2 H 1	450	320																																																																						
		S <sub>s</sub> -B 2 H 2	490																																																																							
		S <sub>s</sub> -B 3 H 1	430	300																																																																						
		S <sub>s</sub> -B 3 H 2	400																																																																							
		S <sub>s</sub> -B 4 H 1	540	-																																																																						
		S <sub>s</sub> -B 4 H 2	500																																																																							
種類	地震動名	最大加速度 (cm/s <sup>2</sup> )																																																																								
		NS成分	EW成分	UD成分																																																																						
基準地震動 S <sub>s</sub>	応答スペクトルに基づく地震動	S <sub>s</sub> -A	600	400																																																																						
	2004年北海道留萌支庁南部地震を考慮した地震動	S <sub>s</sub> -B 1	620	320																																																																						
	断層モデルを用いた手法による地震動	S <sub>s</sub> -B 2 H 1	450	320																																																																						
		S <sub>s</sub> -B 2 H 2	490																																																																							
		S <sub>s</sub> -B 3 H 1	430	300																																																																						
		S <sub>s</sub> -B 3 H 2	400																																																																							
		S <sub>s</sub> -B 4 H 1	540	-																																																																						
		S <sub>s</sub> -B 4 H 2	500																																																																							
標準応答スペクトルを考慮した地震動	S <sub>s</sub> -B 5	697	442																																																																							
5-1-5	2	5-1-5	2																																																																							

変更前 (変更前 (既設工認))

変更後

変更理由

表 4.1-1 弾性設計用地震動 S<sub>a</sub>設計用最大加速度 (使用済燃料貯蔵建屋) (1/3)

建屋	質点番号	T.P. (m)	最大加速度 (×9.8 m/s <sup>2</sup> ) ×1.0								
			S <sub>a</sub> -A			S <sub>a</sub> -B1			S <sub>a</sub> -B2H1		
			NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向
貯蔵建屋 使用済燃料	4	29.22	0.57	0.64	0.32	0.60	0.62	0.20	0.24	0.25	0.21 <sup>*1</sup>
	5	16.30	0.51	0.53	0.31	0.56	0.56	0.19	0.22	0.20	0.18 <sup>*1</sup>

表 4.1-1 弾性設計用地震動 S<sub>a</sub>設計用最大加速度 (使用済燃料貯蔵建屋) (1/3)

建屋	質点番号	T.P. (m)	最大加速度 (×9.8 m/s <sup>2</sup> ) ×1.0								
			S <sub>a</sub> -A			S <sub>a</sub> -B1			S <sub>a</sub> -B2H1		
			NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向
貯蔵建屋 使用済燃料	4	29.22	0.57	0.64	0.32	0.60	0.62	0.20	0.24	0.25	0.21 <sup>*1</sup>
	5	16.30	0.51	0.53	0.31	0.56	0.56	0.19	0.22	0.20	0.18 <sup>*1</sup>

(変更なし)

表 4.1-1 弾性設計用地震動 S<sub>a</sub>設計用最大加速度 (使用済燃料貯蔵建屋) (2/3)

建屋	質点番号	T.P. (m)	最大加速度 (×9.8 m/s <sup>2</sup> ) ×1.0								
			S <sub>a</sub> -B2H2			S <sub>a</sub> -B3H1			S <sub>a</sub> -B3H2		
			NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向
貯蔵建屋 使用済燃料	4	29.22	0.26	0.28	- <sup>*1</sup>	0.27	0.38	0.23 <sup>*2</sup>	0.30	0.32	- <sup>*2</sup>
	5	16.30	0.24	0.27	- <sup>*1</sup>	0.24	0.27	0.21 <sup>*2</sup>	0.26	0.27	- <sup>*2</sup>

表 4.1-1 弾性設計用地震動 S<sub>a</sub>設計用最大加速度 (使用済燃料貯蔵建屋) (2/3)

建屋	質点番号	T.P. (m)	最大加速度 (×9.8 m/s <sup>2</sup> ) ×1.0								
			S <sub>a</sub> -B2H2			S <sub>a</sub> -B3H1			S <sub>a</sub> -B3H2		
			NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向
貯蔵建屋 使用済燃料	4	29.22	0.26	0.28	- <sup>*1</sup>	0.27	0.38	0.23 <sup>*2</sup>	0.30	0.32	- <sup>*2</sup>
	5	16.30	0.24	0.27	- <sup>*1</sup>	0.24	0.27	0.21 <sup>*2</sup>	0.26	0.27	- <sup>*2</sup>

(変更なし)

表 4.1-1 弾性設計用地震動 S<sub>a</sub>設計用最大加速度 (使用済燃料貯蔵建屋) (3/3)

建屋	質点番号	T.P. (m)	最大加速度 (×9.8 m/s <sup>2</sup> ) ×1.0					
			S <sub>a</sub> -B4H1			S <sub>a</sub> -B4H2		
			NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向
貯蔵建屋 使用済燃料	4	29.22	0.32	0.36	-	0.39	0.45	-
	5	16.30	0.29	0.31	-	0.36	0.36	-

表 4.1-1 弾性設計用地震動 S<sub>a</sub>設計用最大加速度 (使用済燃料貯蔵建屋) (3/3)

建屋	質点番号	T.P. (m)	最大加速度 (×9.8 m/s <sup>2</sup> ) ×1.0								
			S <sub>a</sub> -B4H1			S <sub>a</sub> -B4H2			S <sub>a</sub> -B5		
			NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向
貯蔵建屋 使用済燃料	4	29.22	0.32	0.36	-	0.39	0.45	-	0.53	0.54	0.34
	5	16.30	0.29	0.31	-	0.36	0.36	-	0.46	0.48	0.32

S<sub>5</sub>-B5 の追加

\*1: S<sub>a</sub>-B2の鉛直方向震度についてはS<sub>a</sub>-B2H1の鉛直方向欄に記す。  
\*2: S<sub>a</sub>-B3の鉛直方向震度についてはS<sub>a</sub>-B3H1の鉛直方向欄に記す。

\*1: S<sub>a</sub>-B2の鉛直方向震度についてはS<sub>a</sub>-B2H1の鉛直方向欄に記す。  
\*2: S<sub>a</sub>-B3の鉛直方向震度についてはS<sub>a</sub>-B3H1の鉛直方向欄に記す。

変更前 (変更前 (既設工認))

変更後

変更理由

表 4.1-2 弾性設計用地震動  $S_d$  設計用最大加速度 (使用済燃料貯蔵建屋) (1/3)

建屋	質点番号	T.P. (m)	最大加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.2$								
			$S_d$ -A			$S_d$ -B1			$S_d$ -B2H1		
			NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向
使用済燃料 貯蔵建屋	4	29.22	0.68	0.77	0.38	0.72	0.75	0.24	0.29	0.30	0.25 <sup>*1</sup>
	5	16.30	0.62	0.64	0.37	0.67	0.67	0.23	0.26	0.24	0.22 <sup>*1</sup>

表 4.1-2 弾性設計用地震動  $S_d$  設計用最大加速度 (使用済燃料貯蔵建屋) (2/3)

建屋	質点番号	T.P. (m)	最大加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.2$								
			$S_d$ -B2H2			$S_d$ -B3H1			$S_d$ -B3H2		
			NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向
使用済燃料 貯蔵建屋	4	29.22	0.32	0.34	- <sup>*1</sup>	0.32	0.45	0.27 <sup>*2</sup>	0.36	0.39	- <sup>*2</sup>
	5	16.30	0.28	0.32	- <sup>*1</sup>	0.29	0.33	0.25 <sup>*2</sup>	0.32	0.32	- <sup>*2</sup>

表 4.1-2 弾性設計用地震動  $S_d$  設計用最大加速度 (使用済燃料貯蔵建屋) (3/3)

建屋	質点番号	T.P. (m)	最大加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.2$					
			$S_d$ -B4H1			$S_d$ -B4H2		
			NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向
使用済燃料 貯蔵建屋	4	29.22	0.38	0.44	-	0.47	0.54	-
	5	16.30	0.35	0.38	-	0.43	0.43	-

\*1:  $S_d$ -B2の鉛直方向震度については $S_d$ -B2H1の鉛直方向欄に記す。

\*2:  $S_d$ -B3の鉛直方向震度については $S_d$ -B3H1の鉛直方向欄に記す。

5-1-5

10

表 4.1-2 弾性設計用地震動  $S_d$  設計用最大加速度 (使用済燃料貯蔵建屋) (1/3)

建屋	質点番号	T.P. (m)	最大加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.2$								
			$S_d$ -A			$S_d$ -B1			$S_d$ -B2H1		
			NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向
使用済燃料 貯蔵建屋	4	29.22	0.68	0.77	0.38	0.72	0.75	0.24	0.29	0.30	0.25 <sup>*1</sup>
	5	16.30	0.62	0.64	0.37	0.67	0.67	0.23	0.26	0.24	0.22 <sup>*1</sup>

表 4.1-2 弾性設計用地震動  $S_d$  設計用最大加速度 (使用済燃料貯蔵建屋) (2/3)

建屋	質点番号	T.P. (m)	最大加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.2$								
			$S_d$ -B2H2			$S_d$ -B3H1			$S_d$ -B3H2		
			NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向
使用済燃料 貯蔵建屋	4	29.22	0.32	0.34	- <sup>*1</sup>	0.32	0.45	0.27 <sup>*2</sup>	0.36	0.39	- <sup>*2</sup>
	5	16.30	0.28	0.32	- <sup>*1</sup>	0.29	0.33	0.25 <sup>*2</sup>	0.32	0.32	- <sup>*2</sup>

表 4.1-2 弾性設計用地震動  $S_d$  設計用最大加速度 (使用済燃料貯蔵建屋) (3/3)

建屋	質点番号	T.P. (m)	最大加速度 ( $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ ) $\times 1.2$					
			$S_d$ -B4H1			$S_d$ -B4H2		
			NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向
使用済燃料 貯蔵建屋	4	29.22	0.38	0.44	-	0.47	0.54	-
	5	16.30	0.35	0.38	-	0.43	0.43	-

\*1:  $S_d$ -B2の鉛直方向震度については $S_d$ -B2H1の鉛直方向欄に記す。

\*2:  $S_d$ -B3の鉛直方向震度については $S_d$ -B3H1の鉛直方向欄に記す。

5-1-5

6

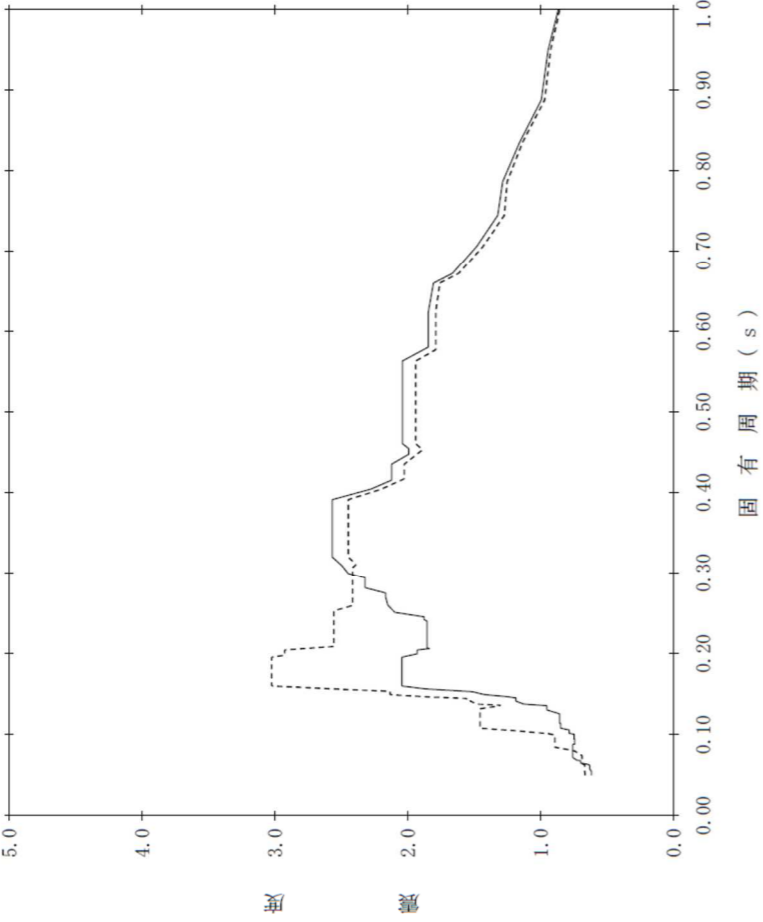
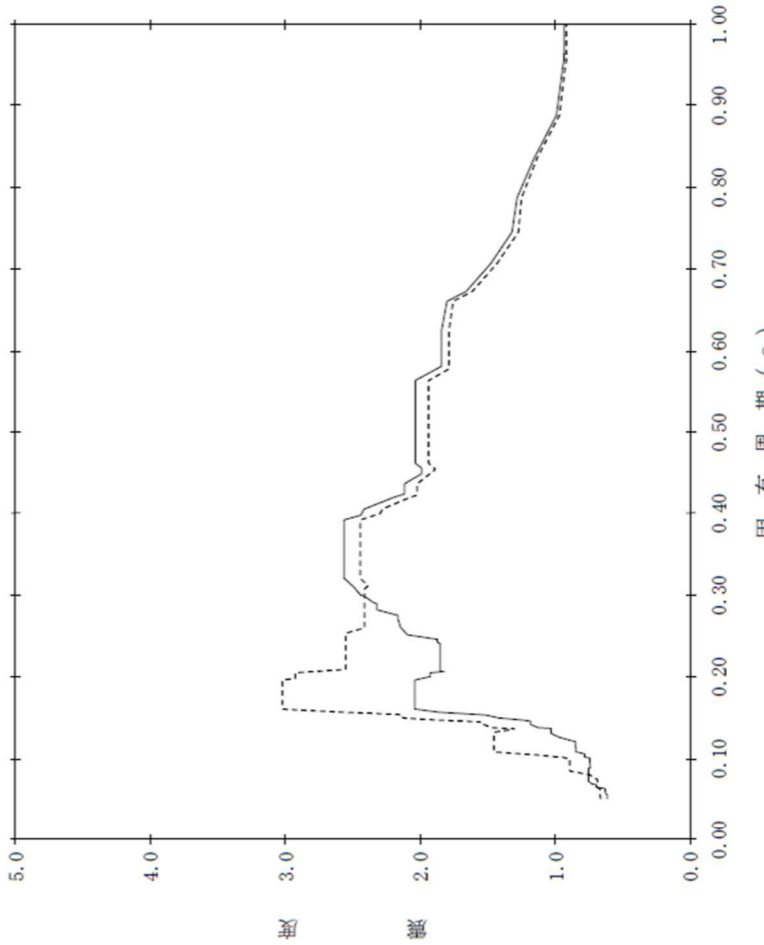
(変更なし)

(変更なし)

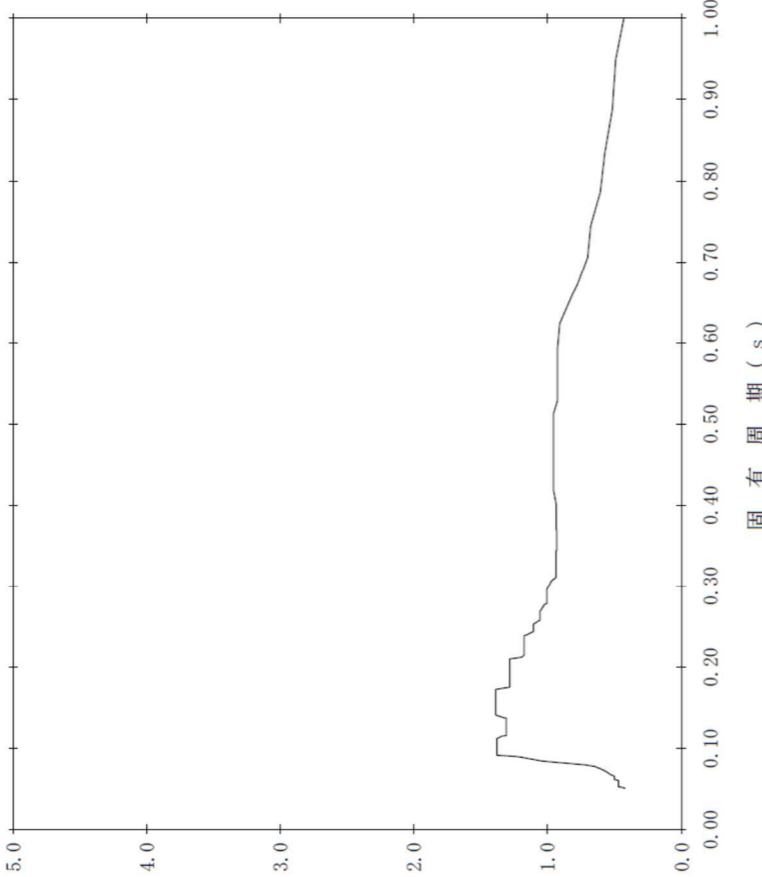
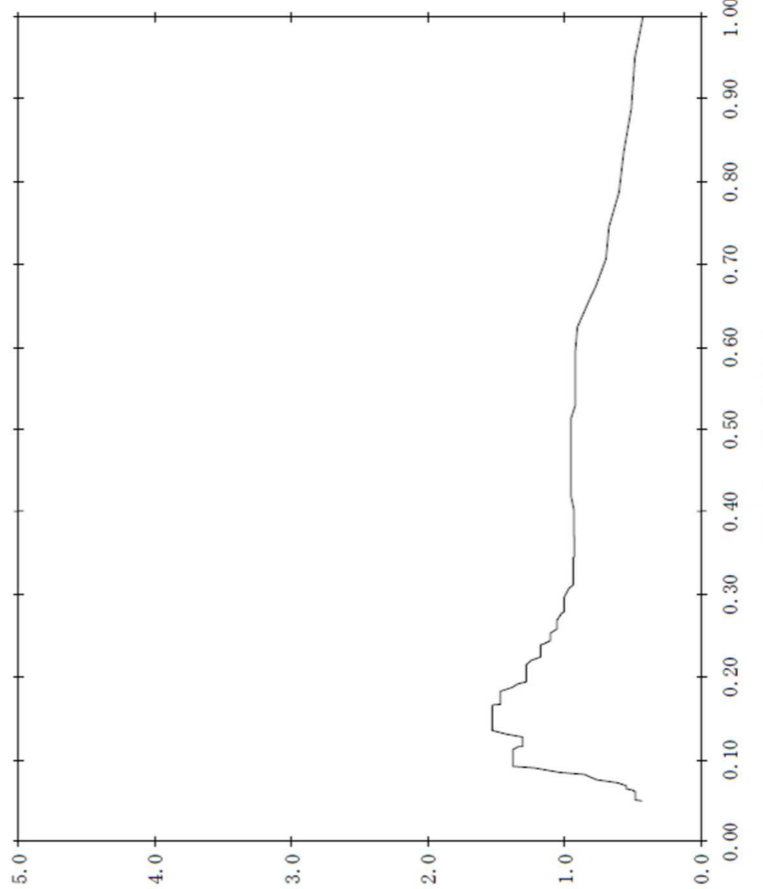
$S_s$ -B5 の追加



変更前（変更前（既設工認））	変更後	変更理由																																						
<中略>	<p style="text-align: center;">表 4.2 弾性設計用地震動 <math>S_d</math> 設計用床応答曲線一覧表（使用済燃料貯蔵建屋）（その1）</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>建屋</th> <th>方向</th> <th>質点番号</th> <th>標高 T.P. (m)</th> <th>減衰定数 (%)</th> <th>図番</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2"><math>S_d</math></td> <td rowspan="2">使用済燃料 貯蔵建屋</td> <td>水平</td> <td>4</td> <td>29.220</td> <td>2.0</td> <td>SB-SdH-SB1</td> </tr> <tr> <td>方向</td> <td>5</td> <td>16.300</td> <td>1.0</td> <td>SB-SdH-SB2</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">表 4.2 弾性設計用地震動 <math>S_d</math> 設計用床応答曲線一覧表（使用済燃料貯蔵建屋）（その2）</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>建屋</th> <th>方向</th> <th>質点番号</th> <th>標高 T.P. (m)</th> <th>減衰定数 (%)</th> <th>図番</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2"><math>S_d</math></td> <td rowspan="2">使用済燃料 貯蔵建屋</td> <td>鉛直</td> <td>4</td> <td>29.220</td> <td>2.0</td> <td>SB-SdV-SB1</td> </tr> <tr> <td>方向</td> <td>5</td> <td>16.300</td> <td>1.0</td> <td>SB-SdV-SB2</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">5-1-5</p> <p style="text-align: center;">7</p>	地震動	建屋	方向	質点番号	標高 T.P. (m)	減衰定数 (%)	図番	$S_d$	使用済燃料 貯蔵建屋	水平	4	29.220	2.0	SB-SdH-SB1	方向	5	16.300	1.0	SB-SdH-SB2	地震動	建屋	方向	質点番号	標高 T.P. (m)	減衰定数 (%)	図番	$S_d$	使用済燃料 貯蔵建屋	鉛直	4	29.220	2.0	SB-SdV-SB1	方向	5	16.300	1.0	SB-SdV-SB2	<p style="text-align: center;">(変更なし)</p> <p style="text-align: center;">(変更なし)</p>
地震動	建屋	方向	質点番号	標高 T.P. (m)	減衰定数 (%)	図番																																		
$S_d$	使用済燃料 貯蔵建屋	水平	4	29.220	2.0	SB-SdH-SB1																																		
		方向	5	16.300	1.0	SB-SdH-SB2																																		
地震動	建屋	方向	質点番号	標高 T.P. (m)	減衰定数 (%)	図番																																		
$S_d$	使用済燃料 貯蔵建屋	鉛直	4	29.220	2.0	SB-SdV-SB1																																		
		方向	5	16.300	1.0	SB-SdV-SB2																																		

変更前 (変更前 (既設工認))	変更後	変更理由
<p data-bbox="249 1726 320 1751">5-1-5</p> <p data-bbox="320 604 427 1541"> <b>【SB-SdH-SB1】</b>            構造物名：使用済燃料貯蔵建屋            標高：T.P. 29.220m            減衰定数：2.0%            波形名：弾性設計用地震動 S<sub>d</sub>            NS方向            EW方向         </p>  <p data-bbox="744 1726 780 1751">12</p>	<p data-bbox="1391 1726 1463 1751">5-1-5</p> <p data-bbox="1368 590 1475 1541"> <b>【SB-SdH-SB1】</b>            構造物名：使用済燃料貯蔵建屋            標高：T.P. 29.220m            減衰定数：2.0%            波形名：弾性設計用地震動 S<sub>d</sub>            NS方向            EW方向         </p>  <p data-bbox="1783 1713 1804 1738">8</p>	<p data-bbox="2338 512 2499 537">S<sub>s</sub>-B5 の追加</p>

変更前 (変更前 (既設工認))	変更後	変更理由
<p>【SB-SdH-SB2】</p> <p>構造物名：使用済燃料貯蔵建屋            標高：T.P. 16.300m            減衰定数：1.0%</p> <p>NS方向            EW方向</p> <p>固有周期 (s)</p> <p>5-1-5</p> <p>13</p>	<p>【SB-SdH-SB2】</p> <p>構造物名：使用済燃料貯蔵建屋            標高：T.P. 16.300m            減衰定数：1.0%</p> <p>NS方向            EW方向</p> <p>固有周期 (s)</p> <p>5-1-5</p> <p>9</p>	<p>S<sub>s</sub>-B5 の追加</p>

変更前 (変更前 (既設工認))	変更後	変更理由
<p data-bbox="281 1753 356 1774">5-1-5</p> <p data-bbox="326 577 385 1543">           構造物名：使用済燃料貯蔵建屋            標高：T.P. 29.220m            波形式：弾性設計用地震動 S<sub>d</sub>            減衰定数：2.0%         </p> <p data-bbox="326 609 371 735">【SB-SdV-SB1】</p> <p data-bbox="356 577 385 672">鉛直方向</p>  <p data-bbox="742 1732 786 1753">14</p>	<p data-bbox="1380 1732 1454 1753">5-1-5</p> <p data-bbox="1380 577 1439 1543">           構造物名：使用済燃料貯蔵建屋            標高：T.P. 29.220m            波形式：弾性設計用地震動 S<sub>d</sub>            減衰定数：2.0%         </p> <p data-bbox="1350 598 1394 724">【SB-SdV-SB1】</p> <p data-bbox="1380 567 1409 661">鉛直方向</p>  <p data-bbox="1765 1722 1810 1743">10</p>	<p data-bbox="2329 504 2507 535">S<sub>s</sub>-B5 の追加</p>

変更前 (変更前 (既設工認))	変更後	変更理由
<p>5-1-5</p> <p>15</p> <p>【SB-SdV-SB2】 鉛直方向</p> <p>構造物名：使用済燃料貯蔵建屋 標高：T.P. 16.300m 減衰定数：1.0%</p> <p>波形名：弾性設計用地震動 S<sub>d</sub></p>	<p>5-1-5</p> <p>11</p> <p>【SB-SdV-SB2】 鉛直方向</p> <p>構造物名：使用済燃料貯蔵建屋 標高：T.P. 16.300m 減衰定数：1.0%</p> <p>波形名：弾性設計用地震動 S<sub>d</sub></p>	<p>S<sub>s</sub>-B5 の追加</p>

変更前（変更前（既設工認））

変更後

変更理由

表 4.3-1 基準地震動 S<sub>s</sub> 設計用最大加速度（使用済燃料貯蔵建屋）（1/3）

建屋	質点番号	T.P. (m)	最大加速度 (×9.8 m/s <sup>2</sup> ) ×1.0								
			S <sub>s</sub> -A			S <sub>s</sub> -B1			S <sub>s</sub> -B2H1		
			NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向
貯蔵建屋 使用済燃料	4	29.22	1.07	1.19	0.60	1.12	1.17	0.38	0.44	0.51	0.41 <sup>*1</sup>
	5	16.30	0.98	1.03	0.58	1.06	1.09	0.36	0.41	0.42	0.39 <sup>*1</sup>

表 4.3-1 基準地震動 S<sub>s</sub> 設計用最大加速度（使用済燃料貯蔵建屋）（2/3）

建屋	質点番号	T.P. (m)	最大加速度 (×9.8 m/s <sup>2</sup> ) ×1.0								
			S <sub>s</sub> -B2H2			S <sub>s</sub> -B3H1			S <sub>s</sub> -B3H2		
			NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向
貯蔵建屋 使用済燃料	4	29.22	0.56	0.58	— <sup>*1</sup>	0.57	0.73	0.44 <sup>*2</sup>	0.58	0.61	— <sup>*2</sup>
	5	16.30	0.50	0.56	— <sup>*1</sup>	0.48	0.54	0.40 <sup>*2</sup>	0.55	0.52	— <sup>*2</sup>

表 4.3-1 基準地震動 S<sub>s</sub> 設計用最大加速度（使用済燃料貯蔵建屋）（3/3）

建屋	質点番号	T.P. (m)	最大加速度 (×9.8 m/s <sup>2</sup> ) ×1.0					
			S <sub>s</sub> -B4H1			S <sub>s</sub> -B4H2		
			NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向
貯蔵建屋 使用済燃料	4	29.22	0.63	0.73	—	0.76	0.91	—
	5	16.30	0.52	0.59	—	0.70	0.71	—

\*1: S<sub>s</sub>-B2の鉛直方向震度についてはS<sub>s</sub>-B2H1の鉛直方向欄に記す。  
\*2: S<sub>s</sub>-B3の鉛直方向震度についてはS<sub>s</sub>-B3H1の鉛直方向欄に記す。

5-1-5

16

表 4.3-1 基準地震動 S<sub>s</sub> 設計用最大加速度（使用済燃料貯蔵建屋）（1/3）

建屋	質点番号	T.P. (m)	最大加速度 (×9.8 m/s <sup>2</sup> ) ×1.0								
			S <sub>s</sub> -A			S <sub>s</sub> -B1			S <sub>s</sub> -B2H1		
			NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向
貯蔵建屋 使用済燃料	4	29.22	1.07	1.19	0.60	1.12	1.17	0.38	0.44	0.51	0.41 <sup>*1</sup>
	5	16.30	0.98	1.03	0.58	1.06	1.09	0.36	0.41	0.42	0.39 <sup>*1</sup>

表 4.3-1 基準地震動 S<sub>s</sub> 設計用最大加速度（使用済燃料貯蔵建屋）（2/3）

建屋	質点番号	T.P. (m)	最大加速度 (×9.8 m/s <sup>2</sup> ) ×1.0								
			S <sub>s</sub> -B2H2			S <sub>s</sub> -B3H1			S <sub>s</sub> -B3H2		
			NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向
貯蔵建屋 使用済燃料	4	29.22	0.56	0.58	— <sup>*1</sup>	0.57	0.73	0.44 <sup>*2</sup>	0.58	0.61	— <sup>*2</sup>
	5	16.30	0.50	0.56	— <sup>*1</sup>	0.48	0.54	0.40 <sup>*2</sup>	0.55	0.52	— <sup>*2</sup>

表 4.3-1 基準地震動 S<sub>s</sub> 設計用最大加速度（使用済燃料貯蔵建屋）（3/3）

建屋	質点番号	T.P. (m)	最大加速度 (×9.8 m/s <sup>2</sup> ) ×1.0								
			S <sub>s</sub> -B4H1			S <sub>s</sub> -B4H2			S <sub>s</sub> -B5		
			NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向
貯蔵建屋 使用済燃料	4	29.22	0.63	0.73	—	0.76	0.91	—	0.97	0.99	0.65
	5	16.30	0.52	0.59	—	0.70	0.71	—	0.85	0.87	0.61

\*1: S<sub>s</sub>-B2の鉛直方向震度についてはS<sub>s</sub>-B2H1の鉛直方向欄に記す。  
\*2: S<sub>s</sub>-B3の鉛直方向震度についてはS<sub>s</sub>-B3H1の鉛直方向欄に記す。

5-1-5

14

(変更なし)

(変更なし)

S<sub>s</sub>-B5 の追加

変更前 (変更前 (既設工認))

変更後

変更理由

表 4.3-2 基準地震動 S<sub>s</sub> 設計用最大加速度 (使用済燃料貯蔵建屋) (1/3)

建屋	質点番号	T.P. (m)	最大加速度 (×9.8 m/s <sup>2</sup> ) ×1.2								
			S <sub>s</sub> -A			S <sub>s</sub> -B1			S <sub>s</sub> -B2H1		
			NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向
貯蔵建屋 使用済燃料	4	29.22	1.21	1.36	0.71	1.35	1.39	0.41	0.49	0.54	0.47 <sup>*1</sup>
	5	16.30	1.10	1.15	0.69	1.27	1.29	0.38	0.45	0.43	0.44 <sup>*1</sup>

表 4.3-2 基準地震動 S<sub>s</sub> 設計用最大加速度 (使用済燃料貯蔵建屋) (2/3)

建屋	質点番号	T.P. (m)	最大加速度 (×9.8 m/s <sup>2</sup> ) ×1.2								
			S <sub>s</sub> -B2H2			S <sub>s</sub> -B3H1			S <sub>s</sub> -B3H2		
			NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向
貯蔵建屋 使用済燃料	4	29.22	0.57	0.62	- <sup>*1</sup>	0.60	0.79	0.50 <sup>*2</sup>	0.66	0.73	- <sup>*2</sup>
	5	16.30	0.51	0.58	- <sup>*1</sup>	0.52	0.60	0.45 <sup>*2</sup>	0.63	0.61	- <sup>*2</sup>

表 4.3-2 基準地震動 S<sub>s</sub> 設計用最大加速度 (使用済燃料貯蔵建屋) (3/3)

建屋	質点番号	T.P. (m)	最大加速度 (×9.8 m/s <sup>2</sup> ) ×1.2					
			S <sub>s</sub> -B4H1			S <sub>s</sub> -B4H2		
			NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向
貯蔵建屋 使用済燃料	4	29.22	0.73	0.81	-	0.87	1.02	-
	5	16.30	0.62	0.71	-	0.81	0.82	-

\*1: S<sub>s</sub>-B2の鉛直方向震度についてはS<sub>s</sub>-B2H1の鉛直方向欄に記す。  
\*2: S<sub>s</sub>-B3の鉛直方向震度についてはS<sub>s</sub>-B3H1の鉛直方向欄に記す。

表 4.3-2 基準地震動 S<sub>s</sub> 設計用最大加速度 (使用済燃料貯蔵建屋) (1/3)

建屋	質点番号	T.P. (m)	最大加速度 (×9.8 m/s <sup>2</sup> ) ×1.2								
			S <sub>s</sub> -A			S <sub>s</sub> -B1			S <sub>s</sub> -B2H1		
			NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向
貯蔵建屋 使用済燃料	4	29.22	1.21	1.36	0.71	1.35	1.39	0.41	0.49	0.54	0.47 <sup>*1</sup>
	5	16.30	1.10	1.15	0.69	1.27	1.29	0.38	0.45	0.43	0.44 <sup>*1</sup>

表 4.3-2 基準地震動 S<sub>s</sub> 設計用最大加速度 (使用済燃料貯蔵建屋) (2/3)

建屋	質点番号	T.P. (m)	最大加速度 (×9.8 m/s <sup>2</sup> ) ×1.2								
			S <sub>s</sub> -B2H2			S <sub>s</sub> -B3H1			S <sub>s</sub> -B3H2		
			NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向
貯蔵建屋 使用済燃料	4	29.22	0.57	0.62	- <sup>*1</sup>	0.60	0.79	0.50 <sup>*2</sup>	0.66	0.73	- <sup>*2</sup>
	5	16.30	0.51	0.58	- <sup>*1</sup>	0.52	0.60	0.45 <sup>*2</sup>	0.63	0.61	- <sup>*2</sup>

表 4.3-2 基準地震動 S<sub>s</sub> 設計用最大加速度 (使用済燃料貯蔵建屋) (3/3)

建屋	質点番号	T.P. (m)	最大加速度 (×9.8 m/s <sup>2</sup> ) ×1.2								
			S <sub>s</sub> -B4H1			S <sub>s</sub> -B4H2			S <sub>s</sub> -B5		
			NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向
貯蔵建屋 使用済燃料	4	29.22	0.73	0.81	-	0.87	1.02	-	1.12	1.15	0.73
	5	16.30	0.62	0.71	-	0.81	0.82	-	1.01	1.03	0.69

\*1: S<sub>s</sub>-B2の鉛直方向震度についてはS<sub>s</sub>-B2H1の鉛直方向欄に記す。  
\*2: S<sub>s</sub>-B3の鉛直方向震度についてはS<sub>s</sub>-B3H1の鉛直方向欄に記す。

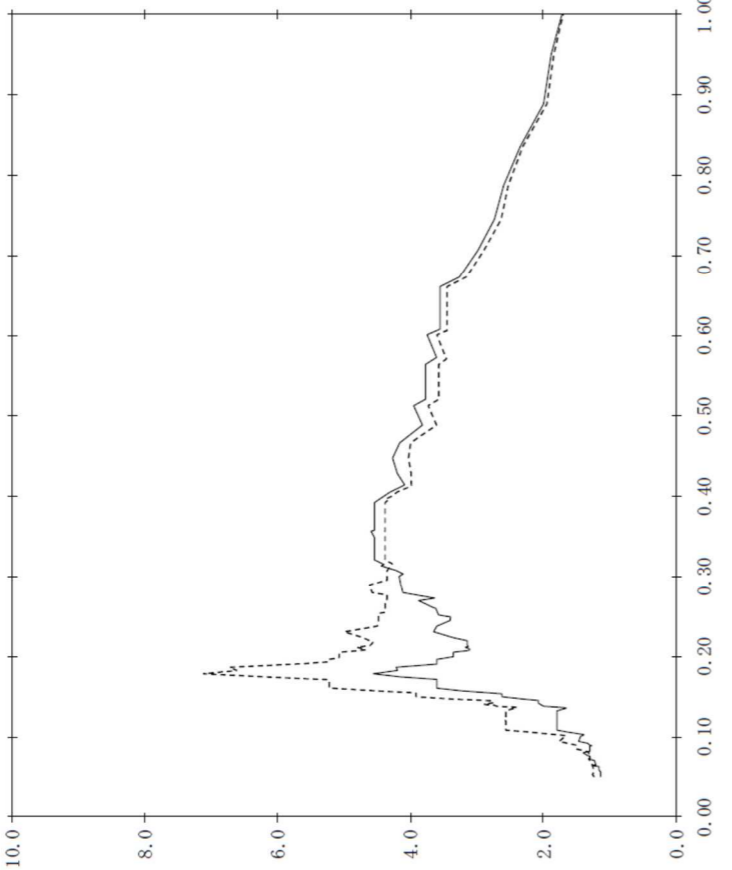
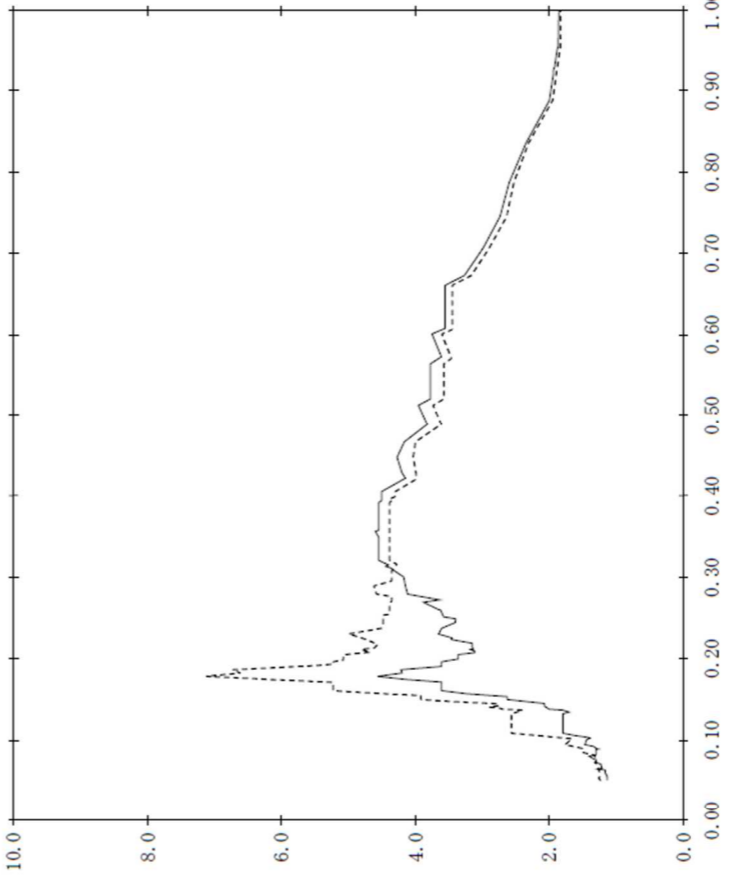
(変更なし)

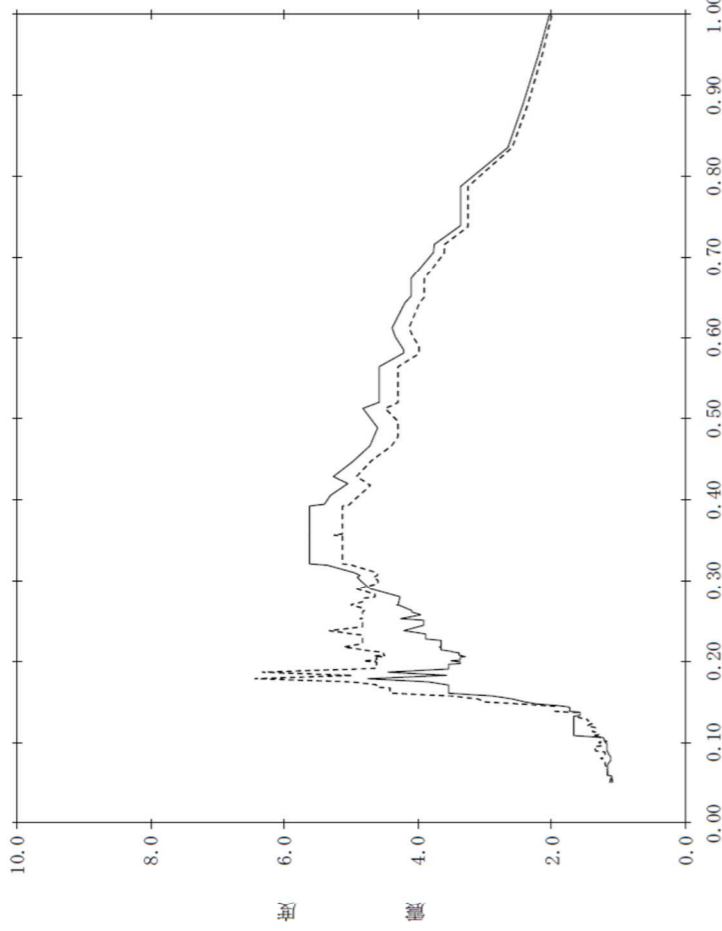
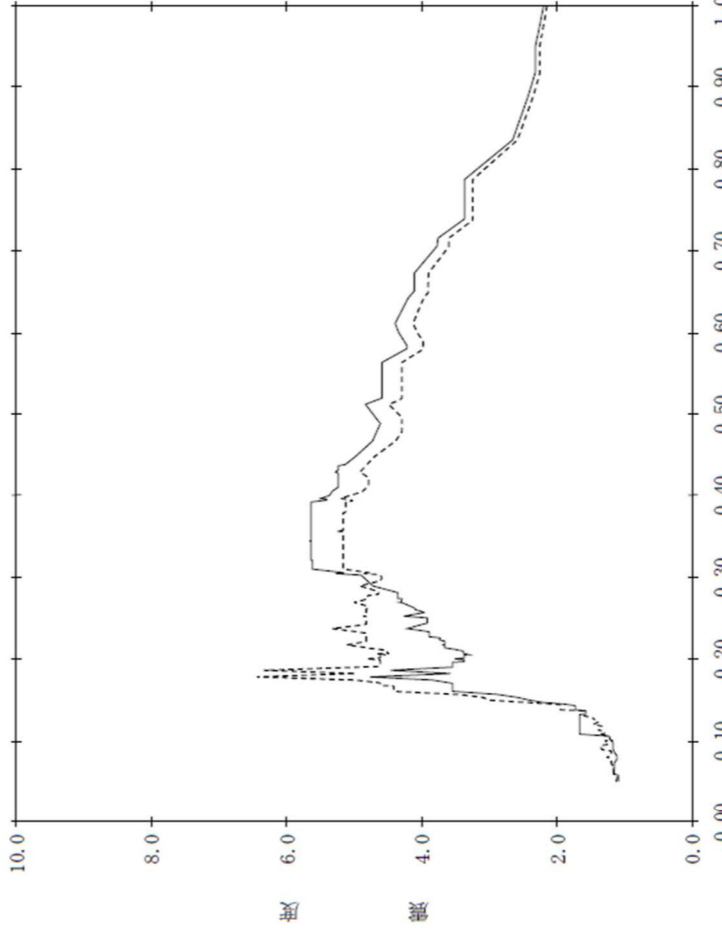
(変更なし)

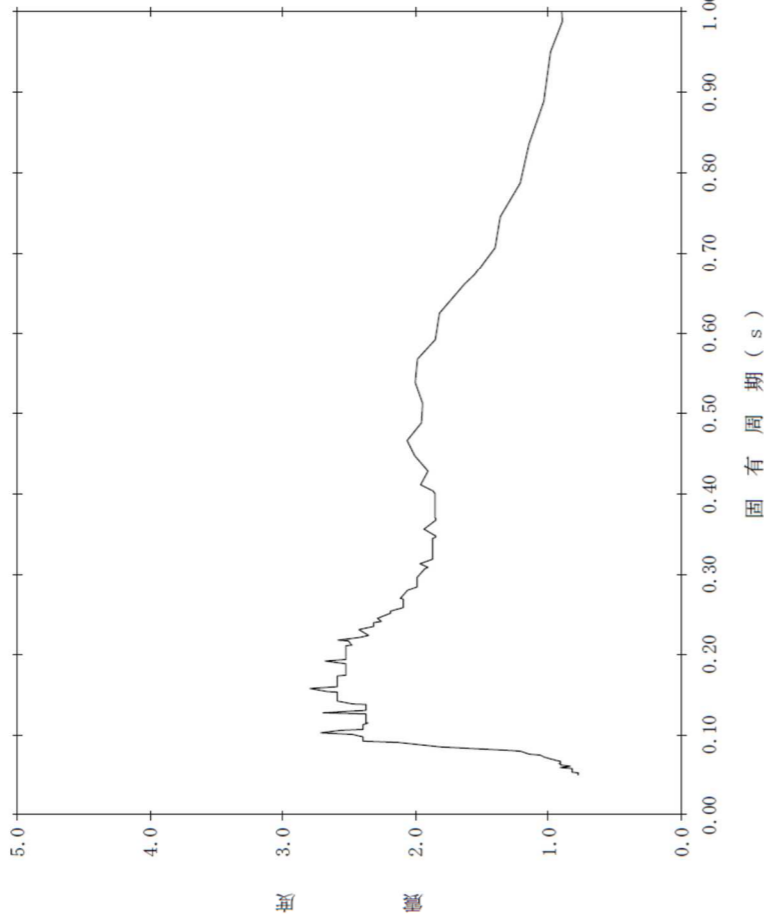
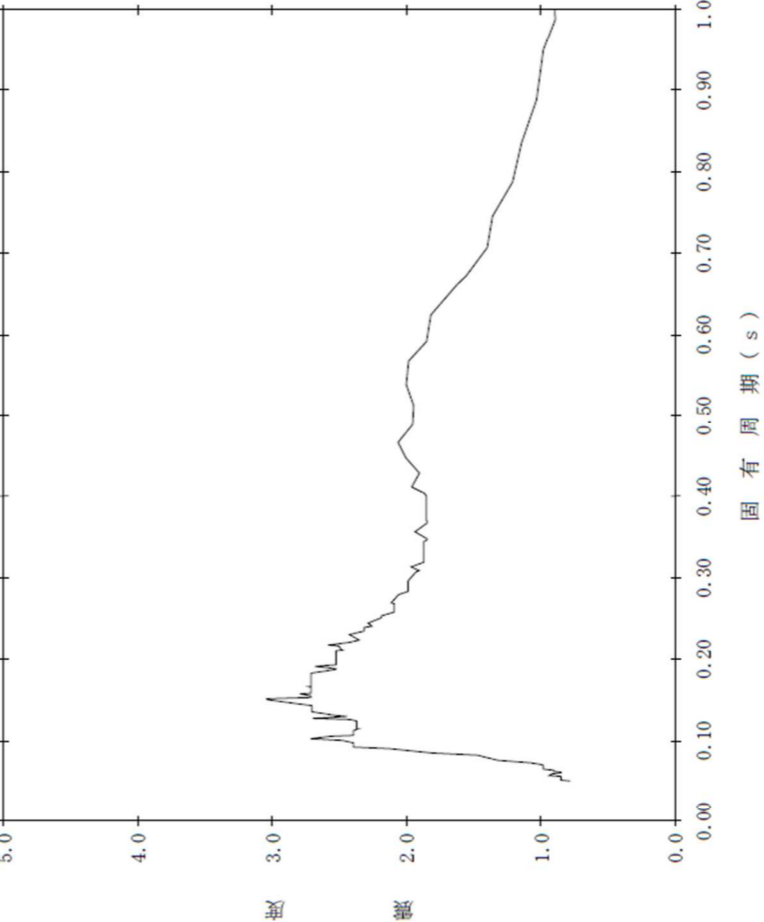
S<sub>s</sub>-B5 の追加

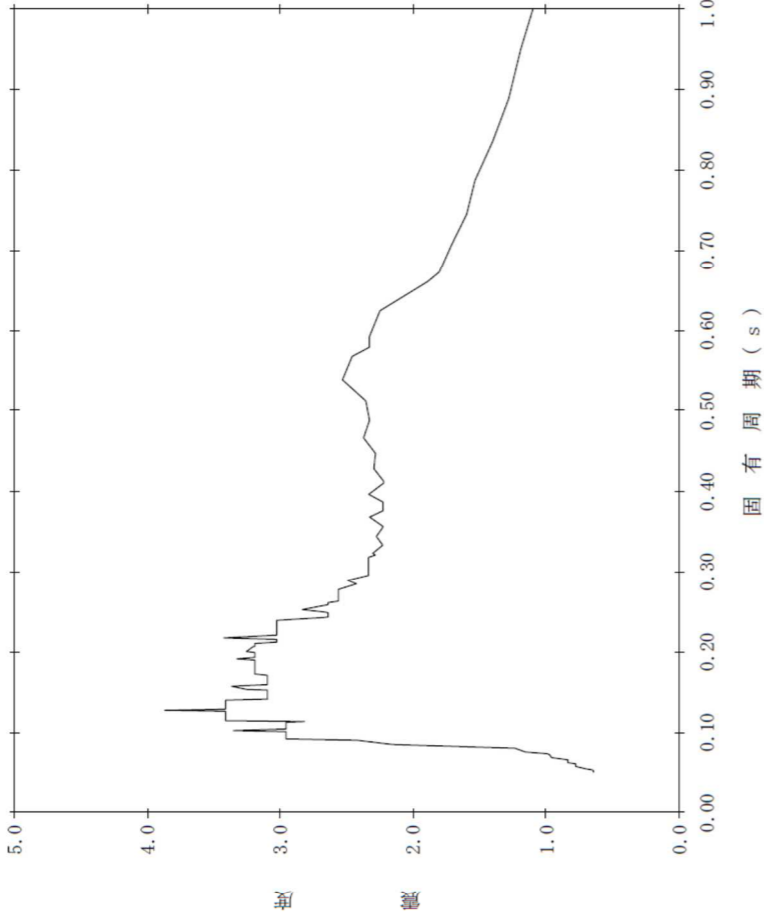
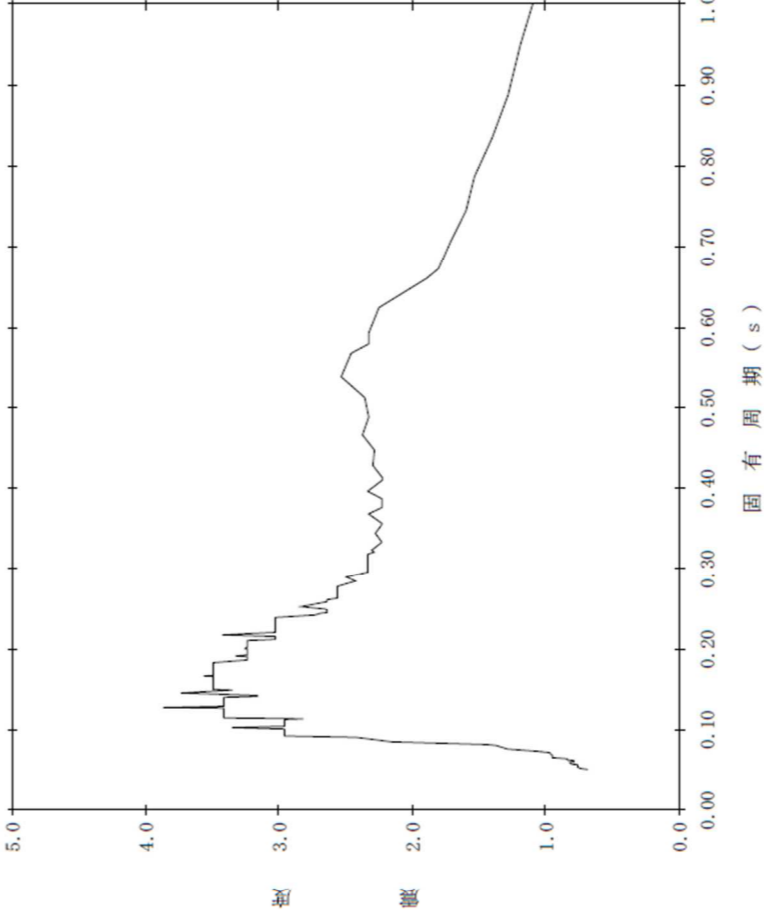
変更前（変更前（既設工認））	変更後	変更理由																																						
<p data-bbox="296 331 400 361">&lt;中略&gt;</p>	<p data-bbox="1484 478 2151 508">表 4.4 基準地震動 S<sub>s</sub> 設計用床応答曲線一覧表（使用済燃料貯蔵建屋）（その1）</p> <table border="1" data-bbox="1424 504 2240 609"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>建屋</th> <th>方向</th> <th>質点番号</th> <th>標高 T.P. (m)</th> <th>減衰定数 (%)</th> <th>図番</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">S<sub>s</sub></td> <td rowspan="2">使用済燃料 貯蔵建屋</td> <td>水平</td> <td>4</td> <td>29.220</td> <td>2.0</td> <td>SB-SsH-SB1</td> </tr> <tr> <td>方向</td> <td>5</td> <td>16.300</td> <td>1.0</td> <td>SB-SsH-SB2</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1484 655 2151 684">表 4.4 基準地震動 S<sub>s</sub> 設計用床応答曲線一覧表（使用済燃料貯蔵建屋）（その2）</p> <table border="1" data-bbox="1424 680 2240 785"> <thead> <tr> <th>地震動</th> <th>建屋</th> <th>方向</th> <th>質点番号</th> <th>標高 T.P. (m)</th> <th>減衰定数 (%)</th> <th>図番</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">S<sub>s</sub></td> <td rowspan="2">使用済燃料 貯蔵建屋</td> <td>鉛直</td> <td>4</td> <td>29.220</td> <td>2.0</td> <td>SB-SsV-SB1</td> </tr> <tr> <td>方向</td> <td>5</td> <td>16.300</td> <td>1.0</td> <td>SB-SsV-SB2</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="1400 1738 1478 1768">5-1-5</p> <p data-bbox="1816 1738 1846 1768">16</p>	地震動	建屋	方向	質点番号	標高 T.P. (m)	減衰定数 (%)	図番	S <sub>s</sub>	使用済燃料 貯蔵建屋	水平	4	29.220	2.0	SB-SsH-SB1	方向	5	16.300	1.0	SB-SsH-SB2	地震動	建屋	方向	質点番号	標高 T.P. (m)	減衰定数 (%)	図番	S <sub>s</sub>	使用済燃料 貯蔵建屋	鉛直	4	29.220	2.0	SB-SsV-SB1	方向	5	16.300	1.0	SB-SsV-SB2	<p data-bbox="2344 508 2478 537">(変更なし)</p> <p data-bbox="2344 638 2478 667">(変更なし)</p>
地震動	建屋	方向	質点番号	標高 T.P. (m)	減衰定数 (%)	図番																																		
S <sub>s</sub>	使用済燃料 貯蔵建屋	水平	4	29.220	2.0	SB-SsH-SB1																																		
		方向	5	16.300	1.0	SB-SsH-SB2																																		
地震動	建屋	方向	質点番号	標高 T.P. (m)	減衰定数 (%)	図番																																		
S <sub>s</sub>	使用済燃料 貯蔵建屋	鉛直	4	29.220	2.0	SB-SsV-SB1																																		
		方向	5	16.300	1.0	SB-SsV-SB2																																		



変更前 (変更前 (既設工認))	変更後	変更理由
<p data-bbox="338 1808 409 1829">5-1-5</p> <div data-bbox="350 646 1190 1577"> <p data-bbox="359 653 388 772">【SB-SsH-SB1】</p> <p data-bbox="388 995 418 1178">構造物名：使用済燃料貯蔵建屋</p> <p data-bbox="388 995 418 1178">標高：T.P. 29.220m</p> <p data-bbox="427 1430 457 1577">減衰定数：2.0%</p> <p data-bbox="427 961 457 1178">波形名：基準地震動 S<sub>s</sub></p> <p data-bbox="388 646 418 709">NS方向</p> <p data-bbox="427 646 457 709">EW方向</p>  </div> <p data-bbox="765 1751 795 1772">19</p>	<p data-bbox="1412 1772 1484 1793">5-1-5</p> <div data-bbox="1389 625 2228 1577"> <p data-bbox="1397 646 1427 766">【SB-SsH-SB1】</p> <p data-bbox="1418 1289 1448 1577">構造物名：使用済燃料貯蔵建屋</p> <p data-bbox="1418 995 1448 1178">標高：T.P. 29.220m</p> <p data-bbox="1457 1430 1486 1577">減衰定数：2.0%</p> <p data-bbox="1457 961 1486 1178">波形名：基準地震動 S<sub>s</sub></p> <p data-bbox="1418 625 1448 688">NS方向</p> <p data-bbox="1457 625 1486 688">EW方向</p>  </div> <p data-bbox="1798 1776 1828 1797">17</p>	<p data-bbox="2338 554 2496 575">S<sub>s</sub>-B5 の追加</p>

変更前 (変更前 (既設工認))	変更後	変更理由
<p data-bbox="329 1724 403 1749">5-1-5</p> <div data-bbox="359 554 1199 1495"> <p data-bbox="359 554 388 688">【SB-SstH-SB2】</p> <p data-bbox="394 1205 424 1495">構造物名：使用済燃料貯蔵建屋</p> <p data-bbox="394 909 424 1094">標高：T.P. 16.300m</p> <p data-bbox="430 1346 460 1495">減衰定数：1.0%</p> <p data-bbox="430 873 460 1094">波形名：基準地震動 S<sub>s</sub></p> <p data-bbox="394 554 424 722">NS方向</p> <p data-bbox="430 554 460 722">EW方向</p>  <p data-bbox="768 1667 801 1692">20</p> </div>	<p data-bbox="1418 1688 1492 1713">5-1-5</p> <div data-bbox="1389 533 2228 1495"> <p data-bbox="1389 554 1418 688">【SB-SstI-SB2】</p> <p data-bbox="1424 1205 1454 1495">構造物名：使用済燃料貯蔵建屋</p> <p data-bbox="1424 909 1454 1094">標高：T.P. 16.300m</p> <p data-bbox="1460 1346 1489 1495">減衰定数：1.0%</p> <p data-bbox="1460 873 1489 1094">波形名：基準地震動 S<sub>s</sub></p> <p data-bbox="1424 533 1454 701">NS方向</p> <p data-bbox="1460 533 1489 701">EW方向</p>  <p data-bbox="1804 1696 1837 1722">18</p> </div>	<p data-bbox="2332 464 2502 489">S<sub>s</sub>-B5 の追加</p>

変更前 (変更前 (既設工認))	変更後	変更理由
<p>5-1-5</p> <p>【SB-SsV-SB1】 鉛直方向</p> <p>構造物名：使用済燃料貯蔵建屋 標高：T.P. 29.220m 減衰定数：2.0%</p>  <p>21</p>	<p>5-1-5</p> <p>【SB-SsV-SB1】 鉛直方向</p> <p>構造物名：使用済燃料貯蔵建屋 標高：T.P. 29.220m 減衰定数：2.0%</p>  <p>19</p>	<p>S<sub>S</sub>-B5 の追加</p>

変更前 (変更前 (既設工認))	変更後	変更理由
<p data-bbox="338 1717 409 1745">5-1-5</p> <p data-bbox="359 1205 418 1486">【SB-SsV-SB2】 構造物名：使用済燃料貯蔵建屋 標高：T.P. 16.300m 波形名：基準地震動 S<sub>s</sub> 減衰定数：1.0%</p>  <p data-bbox="765 1661 804 1688">22E</p>	<p data-bbox="1418 1703 1489 1730">5-1-5</p> <p data-bbox="1389 1205 1448 1486">【SB-SsV-SB2】 構造物名：使用済燃料貯蔵建屋 標高：T.P. 16.300m 波形名：基準地震動 S<sub>s</sub> 減衰定数：1.0%</p>  <p data-bbox="1813 1709 1852 1736">20E</p>	<p data-bbox="2338 464 2496 491">S<sub>s</sub>-B5 の追加</p>